

ロボット船によるハス刈り取り実験

日時： 2018年6月14日 9:30～12:30

場所：手賀沼大橋下流のハス群生地

協力：海津裕氏(東京大学大学院農学生命科学研究科生物機械工学研究室准教授)、学生2名

嶋田哲郎氏(公益財団法人宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団総括研究員)

林紀男氏(千葉県立中央博物館主任上席研究員)

山室真澄氏(東京大学大学院新領域創成科学研究科教授)

参加者：我孫子市手賀沼課 辻・大矢、柏市環境政策課 森山、千葉県水質保全課 橋本、

美手連 八楸・中野・間野・小倉・梶・野口・半沢・古川・森・玉田・渡辺・梨本・松島・竹内

※南岸から柏土木事務所の皆さんが見学

やや曇り空ながらもまずまずのお天気に恵まれ、親水広場の栈橋を2隻の船が出航しました。前日、伊豆沼より輸送されたロボット船が、みずすまし号の後部に寄り添ってついてきます。ハスの群生地に到着し、作業予定場所に竹の杭を打ち込み、南岸からも取材や見学の皆さんが見守る中、ロボット船は親船から切り離されました。与えられた指示に従って懸命にオールを漕ぎ、水面下50cmにある刈り取り機を動かす姿は、まるで鳥の子供のように見えて、船上から「可愛い！」という声があがりました。予定の10×20㎡の所を入念に刈り取ってくれました。

刈り取ったハスの葉や茎を袋詰めにし、隣地に比較の為の杭を打ち込み、さあ帰港と声掛け時、みずすまし号にエンジントラブルが発生し、先に戻っていた「手賀沼の小池」のボートに栈橋から再度来て貰いロボット船共々連結帰港しほっとしました。

報道取材もして頂き有難うございました。この実験に対して皆さん方のご協力に感謝いたします。



①ロボット船の進水



②みずすまし号がロボット船を曳航



③試運転（刈り取り刃は上げて）



④刈り取り区画を杭打ち



⑤ロボット船稼働、ドローンで上空より撮影



⑥刈り取った後の開放水面



⑦刈り取ったハスを回収